



000202「エバポレーター洗浄剤」

—施工要領書—

目次

1. セット内容・特長・ご使用上の注意事項・・・2ページ

2. 本体構造・・・3ページ

3. 施工フロー概要・・・4ページ

4. 施工前準備・・・5ページ

5. 施工パターンの確認・・・6ページ

6. 各施工パターン施工手順

- パターン(1)リフトアップして施工/フロント側・リア側・・・7～9ページ
- パターン(2)車内助手席側パネルを外して施工・・・10～11ページ
- パターン(3)車内クリーンエアフィルターを外して施工・・・12～13ページ

7. エアコンユニットの構造・・・14ページ

8. 施工失敗例・・・15ページ



イチネンケミカルズ

セット内容

000202
エバポレーター洗浄剤



ドレン排水口
注入用チューブ



エアフィルター側
注入用チューブ



施工シール

施工日	年 月
☐ NX 202「エバポレーター洗浄剤」	
☐ NX 203「カーエアコンクリーナー」	
次回施工日	年 月
施工店名	

品番	品名	内容量	入数
000202	エバポレーター洗浄剤	180mL	24本/ケース(1セット×24)

特長

- 2種類の付属チューブにより、排水ドレンホースからの注入、またはグローブボックスを取り外してブロアファンの隙間から注入と、施工する車種に合わせて作業方法が選択でき、エアコン内部のエバポレーターを強力に洗浄します。
- 洗浄力の強い泡タイプで、エアコン内部に付着したカビやヤニ汚れを除去し、エアコンのいやな臭いを軽減致します。
- エバポレーターの汚れを除去するので、熱交換率が高まり、エアコンの効き目も回復します。

ご使用上の注意事項

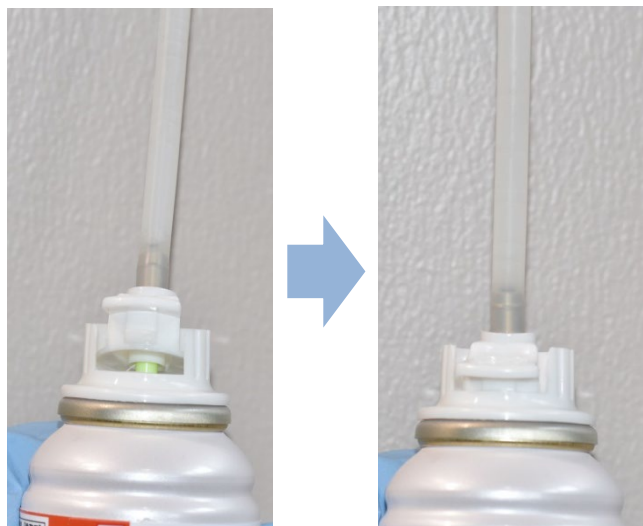
- 人体に害があるので、吸引したり飲んだりしないこと。
- 吸入すると害があるので屋外または換気の良い所で使用すること。
- 容器が破裂する恐れがあるため、直射日光の当たる場所やヒーターの前等温度が上がる場所を避け涼しい場所に保管すること。
- 小児の手に届かないところに保管すること。
- 必要に応じて保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用すること。
- 使用後はよく手を洗うこと。
- さらに詳しくは、安全データシート(SDS)等の資料をご覧ください。

本体構造(ボタンロック機構・チューブの差し込み方法)

噴射ボタンにロック機構が備わっているため、ボタンを押し込み固定することで、ボタンを押し続けなくても液剤の連続噴射ができます。

<ボタンロック機構>

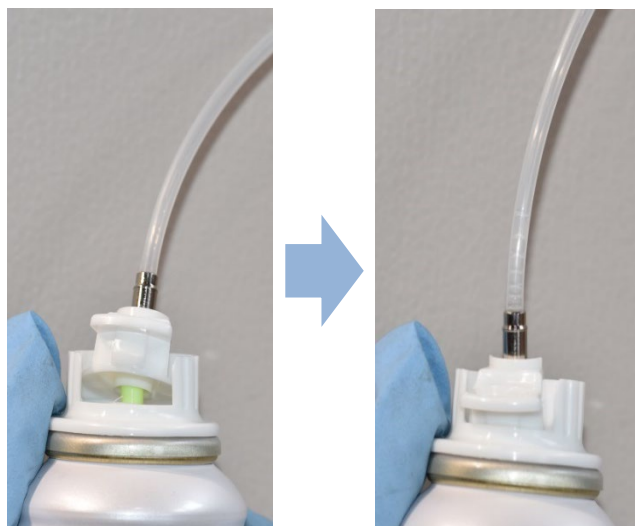
●排水ドレン注入用チューブ



ロックしていない状態
(通常時)

ロックしている状態
(液剤が噴出し続けます)

●クリーンエアフィルター注入用チューブ



ロックしていない状態
(通常時)

ロックしている状態
(液剤が噴出し続けます)

<チューブの差し込み方法>



エアゾール本体にチューブを差し込む際には、指で押さえるなどしてノズルが押し込まれないようにしてください。

排水ドレン注入用チューブはステムの外に差し込みます。



クリーンエアフィルター注入用チューブの場合も同様に、指で押さえるなどしてノズルが押し込まれないようにしてください。

クリーンエアフィルター注入用チューブはステムの中に差し込みます。

施工フロー概要

施工前準備（約1分）…5ページ

施工パターンの確認（約3分）…6ページ

施工手順に沿ってエバポレーター洗浄剤を注入
（約6分）

浸漬及び排出（待機時間約10分）

空気循環（待機時間約5分）

施工完了（合計作業時間約30分以内）

施工前準備

～はじめに～

施工車両に装着されているクリーンエアフィルターの有効期限をご確認ください。使用期限が超過している場合は交換を推奨致します。

1. イグニッションをONにしてください。

2. エアコンのモード設定を下記の通りに行います。 ※1

①	A/Cスイッチ	ON
②	温度設定	最低温度
③	風量	最大
④	吸気モード	内気循環
⑤	吹き出しモード	フェイスモード



3. イグニッションをOFFにしてください。 ※2

※1 エアコンの操作に関しては、各車種の取扱説明書をご確認ください。

※2 ブロアファンが回らないようにして、誤作動を防止するためです。

4. 液剤の注入時にはエアコンユニットの周辺に設置された電装部品に十分注意してください。万が一エアコンユニットから液剤が漏れ出した場合、電装部品が故障する恐れがあります。

注入口別の施工パターン

本品の特徴として、2種類の液剤注入チューブが同梱されている為、以下の施工方法から選択する事ができます。

■パターン(1)

車体下部排水ドレンホースから液剤を注入
※車輛を上げるリフトが必要となります。

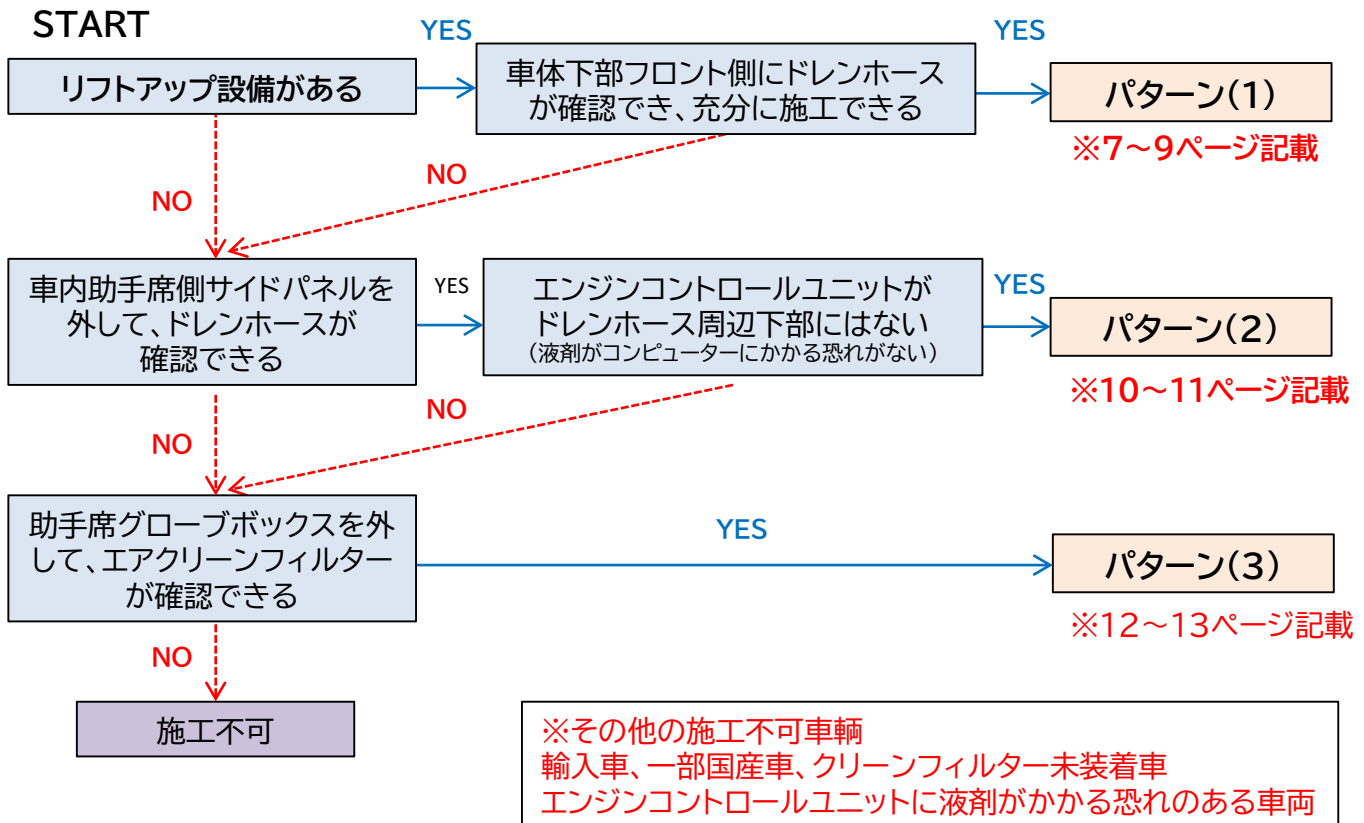
■パターン(2)

車内排水ドレンホースから液剤を注入

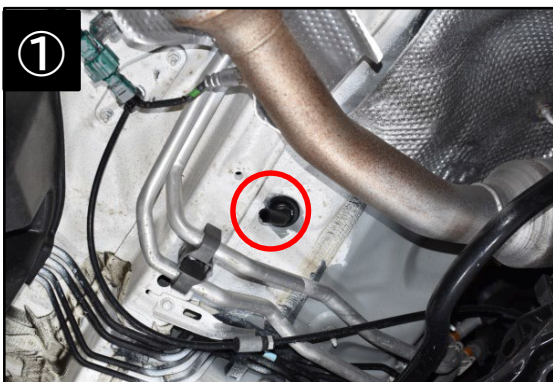
■パターン(3)

エアフィルター挿入口から液剤を注入

<車種別 施工パターン診断>



■パターン(1)リフトアップして施工/フロント側



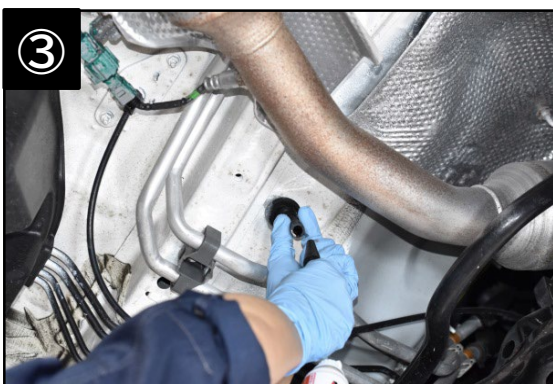
車両をリフトアップしてください。

※写真は車体下部フロント側



排水ドレンホースを確認します。

※車両下部から目視できる箇所にドレンホースが見える車両でも作業上、手が入らない箇所にある場合はパターン②(10～11ページ参照)またはパターン③(12～13ページ参照)の施工パターンをお試しください。



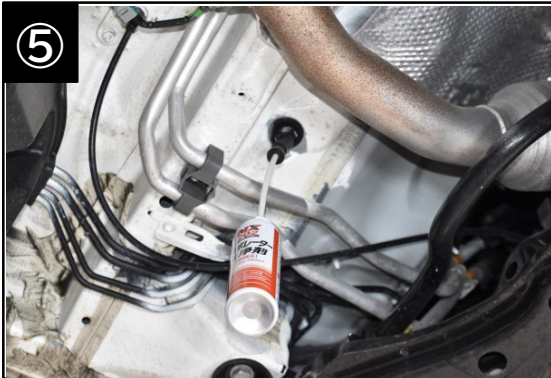
排水ドレンホースを抑えながら、
注入用チューブを差し込みます。

※注入用チューブは洗剤注入中に脱落しないように、
しっかり差し込まれているか確認してください。



ボタンをロックが掛かるまで押し込み
全量注入します。

注入時間は約2分～3分。



全量注入後、そのままの状態で
約10分間放置します。

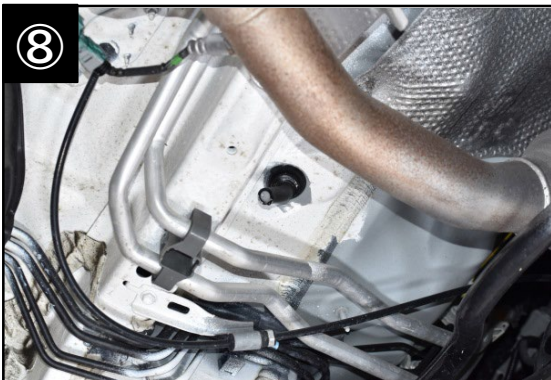
※洗剤を十分にエバポレーターに浸漬・洗浄させるためです。



放置したあとチューブを外します。
排水ドレンホースから液化した廃液が出て
きますので、排水トレイ等の回収容器を用意
してください。



チューブを外す際に廃液が勢いよく噴出する
場合がありますので注意してください。



廃液の排水後、施工前に設定したエアコン設
定状態のまま、エンジンをかけて約5分程度
放置します。

※エアコンを作動させて、エアコンユニット
内に残った洗剤の排出促進・内部の乾燥を促進さ
せるために行います。

施工完了

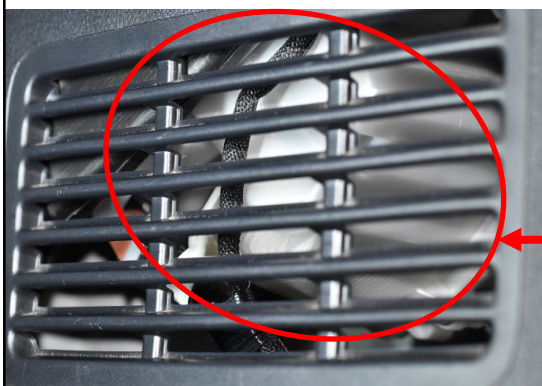
■パターン(1)リフトアップして施工/リア側

※一部車両(ミニバン等)にはリア側にもエアコンユニットがある車両があります。
リヤ側のエバポレーター洗浄工程はフロント側施工(7ページ~8ページ)と同様となりますが、
ドレンホース等車両構造については下記を参照してください。



リア側のエアコンユニットは内気・外気の切り替えが無い車種及びエアフィルターが無い事が多く、かつ車内側から洗浄剤注入するにはパネル類を外さないと施工できないケースが多いため、基本的に車両下部のリア側ドレン排水口からの施工となります。

リア側パネル奥にリヤエアコンユニットがあります。

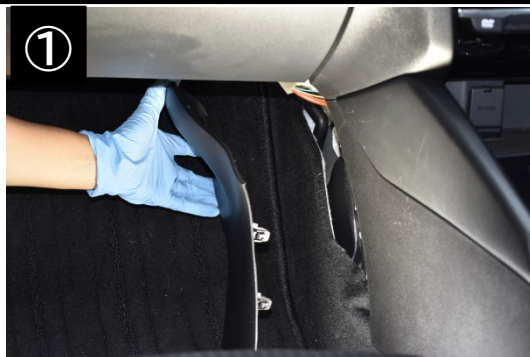


一部車種を除き、リア側エアコンユニット取付位置の下にドレンホースが確認できます。



以降の作業はフロント側施工と同様です。
(7ページ~8ページ)

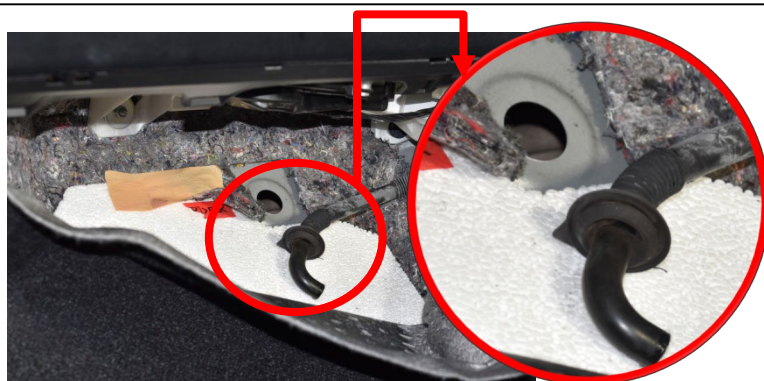
■パターン(2)車内助手席側パネルを外して施工



①助手席側足元のパネルを外します。

②カーペットをめくり、排水ドレンホースを確認します。

③エアコンユニット側のホースと車外側のホースのジョイント部を外します。



※エアコンユニットと車両下部を繋ぐドレンホースが、分岐パーツ等でジョイントされていない場合もあります。その場合は助手席側のカーペットをめくり、排水ドレンホースを引き抜いて施工ができます。**元に戻す際には排水ドレンホースがしっかり差し込まれていることを確認してください。しっかり差し込まれていない場合は、車両下部からの雨水の流入の原因となります。**

④



排水ドレンホースを抑えながら、ドレン排水口注入用チューブを差し込みます。

⑤



しっかりとチューブが差し込まれていることを確認した後、ボタンをロックが掛かるまで押し込み全量注入します。

注入時間は約2分～3分。

⑥



全量注入後、そのままの状態で約10分間放置します。

※洗剤を十分にエバポレーターに浸漬・洗浄させるためです。

⑦



チューブを外す際に廃液が勢いよく噴出する場合がありますので注意してください。

⑧



廃液の排水後、施工前に設定したエアコン設定状態のまま、エンジンをかけて約5分程度放置します。

洗浄後の廃液を排出した後、取り外したパネルやドレンホースを元に戻して施工完了です。

■パターン(3)車内クリーンエアフィルターを外して施工

あらかじめエアコンユニット周辺・下部に新聞やウエスなどを敷いてください。
(ユニットの継ぎ目から洗浄剤が漏れ出して車内を汚す恐れがあるため)

①



グローブボックスを外してエアコンユニットを確認してください。

②



カバーを取り外して、クリーンエアフィルターを確認します。クリーンエアフィルターが汚れている場合は交換を推奨します。

③



クリーンエアフィルターを取り外して、エアフィルター側注入用チューブを差し込みます。

④



ブローファンの隙間を通して奥に差し込みます。エバポレーターは車両中央側(カーナビ・オーディオ等の奥)に設置されていることが多いです。そのため、中央側に向けてチューブを差し込んでいきます。



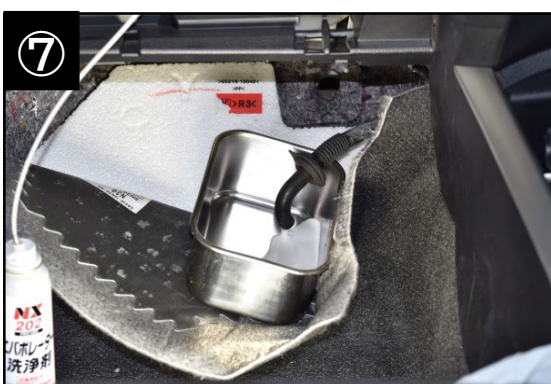
チューブは約30cm程差し込みます。(事前に先端から30cmの位置にテープ等で目印を付けるとチューブ挿入が見やすくなります。)

※通常は車両下部へと繋がるドレンホースから廃液が排出されますが、車内から廃液を回収する際は、車内を汚さないためにトレイなどをご用意ください。



しっかりとチューブが差し込まれていることを確認した後、ロックされるまでボタンを押し込んで全量注入します。

注入時間は約2分～3分。



全量注入後、そのままの状態で約10分間放置します。

※洗浄剤を十分にエバポレーターに浸漬・洗浄させるためです。



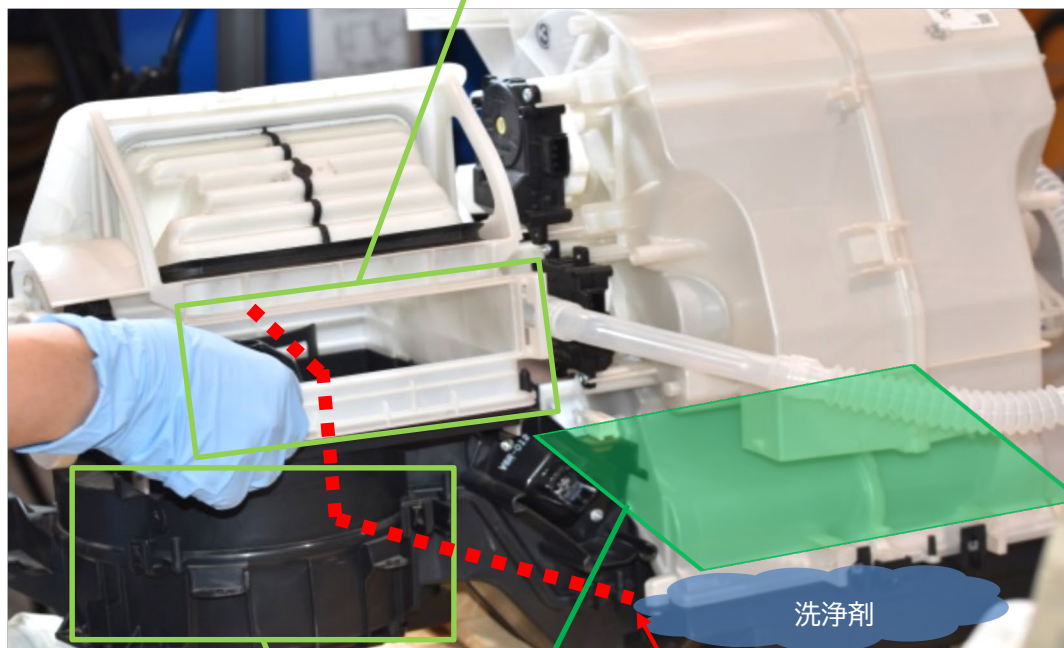
廃液の排水後、エンジンをかけて施工前に設定したエアコン設定状態のまま、約5分程度放置します。

取り外したフィルターやグローブボックスを元に戻して施工完了です。

エアコンユニットの構造

<フロント>

クリーンエアフィルター挿入口



ブロアファン

エバポレーター

エアフィルター側注入用チューブ

<リア>



洗浄剤

ドレン排水口注入用チューブ

施工失敗例



■洗浄剤注入後、10分間待たずにエンジンを始動させる等



ブロアファンの風が回り、液化していない泡がエアコンの吹き出し口から出てくる場合があります。



■パターン③ブロアファンの隙間にクリーンエアフィルター注入用チューブが差し込まれていない。



ブロアファンの手前で泡が充満してしまい、クリーンエアフィルター挿入口から泡が出てきてしまう場合があります。

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.



テクニカルサポートセンター 0120-199-098

月曜日～金曜日までの10:00～17:00(土曜・日曜・祝日を除く)